

はじめに

埼玉病院は埼玉県南西部の朝霞地区（人口約 60 万人）の循環器疾患診療の中心施設で、CCU8 床を有し、365 日 24 時間常時循環器疾患の受け入れを行っている。隣接する東京都練馬区・板橋区も診療圏のため、患者数は豊富で 2012 年度の入院患者数は 1224 名、急性心筋梗塞 115 名、心不全 246 名にのぼる。

当科の特徴として救急の入院患者が多く、ほとんど全ての循環器疾患を診察する機会に恵まれている事が挙げられる。PCI、PTA、カテーテルアブレーション、ペースメーカー植え込みなどの侵襲的治療をはじめ、心血管エコー（経食道エコーを含む）、負荷検査などに加え、IABPやPCPSの留置、心嚢穿刺など、循環器の基本的な手技・治療を専門の認定指導医のもとに、多数例を自ら施行しながら学ぶことが出来る。また、病棟管理は専門スタッフの指導のもと、研修医とともに学び、外来診療も継続して行うことで、循環器医として必要な全ての検査・治療・疾患を経験し、臨床医としての基礎を作ることが出来る理想的な環境にある。

#### 【取得可能な資格】

日本内科学会認定内科医

日本循環器学会認定専門医（初期研修医を含め 6 年を要す）

日本心血管インターベンション治療学会認定医・専門医

#### 【研修目標】

一般内科医として患者の全人的ケアとチーム医療の中核で実践するために、内科全般領域の総合的な臨床能力を基礎として、循環器内科専門医としての臨床能力を習得する。

1. 循環器疾患患者の診断・治療に必要な専門的な知識を習得し、検査、治療、手技を適切に行うことができる。
2. 循環器診療におけるチーム医療の指導的役割を担うことができる
3. 急性期治療のみならず、一次予防、二次予防を含め患者の症状と予後の改善を目指す質の高い臨床能力を養う
4. 診療研究の実践（学会報告・論文発表）ができる

#### 【後期研修カリキュラム】

当院初期研修修了者、他院初期研修修了者に係らず、日本循環器学会の「循環器専門医研修カリキュラム」に従う。循環器専門医取得資格を得るには、2007 年日本循環器学会認定循環器専門医制度規則によると、6 年以上の臨床研修歴が必要である。このため、初期研修（2 年間）の修了医は 4 年間の後期研修が必須である。本カリキュラムの目標は循環器専門医を取得するための、症例、手技を習得することのみならず、より良い循環器内科医となる礎を築くことを目標としている。

## 研修内容

### 後期研修 1 年目

病棟研修を基本とする。初期研修医の指導を行う

1. 日本内科学会認定医資格取得のために不足している症例を経験する
2. 循環器疾患治療に使用する薬剤を適切に使用できる
3. 冠危険因子のコントロールができる
4. 急性冠症候群、不整脈、心不全症例に対する急性期治療を経験し、適切な治療ができる
5. CPAに蘇生チームの一員として適切に行動できる
6. 非侵襲的検査（心エコー・ホルター・トレッドミルなど）の適応が判断でき、実施できる
7. 診断的心臓カテーテル検査の助手を行うことができる。スワンガンツカテーテルを留置できる。
8. PCIの助手ができる
9. 徐脈性不整脈に対して一時的ペースメーカーを留置できる

### 後期研修 2 年目

病棟研修と検査手技の習得を進める。初期研修医の指導を行う

1. 急性冠症候群、不整脈、心不全症例に対する急性期治療、全身管理ができる
2. CPAに蘇生チームのリーダーとして適切に行動できる
3. 非侵襲的検査（心エコー・ホルター・トレッドミル・アイソトープ検査・CT・MRIなど）の適応が判断でき、実施・結果の評価ができる
4. 心臓カテーテル検査の術者を行うことができる
5. 標準的なPCIの術者ができる
6. 心臓電気生理学的検査・カテーテルアブレーションの助手を務める

### 後期研修 3 年目

病棟・検査・治療の研修を継続する。初期研修医の指導を行う

1. 非侵襲的検査・侵襲的検査を適切に使用して、心疾患の適切な診断と治療ができる
2. 重症心不全の適切なマネジメントができる
3. 緊急心臓カテーテル検査と治療を独立して行うことができる
4. 末梢動脈のインターベンション・ペースメーカー移植術の助手、指導医とともに術者として治療ができる

#### 後期研修4年目

循環器専門医を取得するための1年間は当院で3年目の延長として研修を継続して経験を積み重ねることができる。慶應義塾大学循環器内科での研修も可能である（特にカテーテルアブレーション・CRTD・TAVI・経皮的卵円孔閉鎖術・PT SMAなど）

#### 研修達成度の評価

各年度終了時点で、「循環器専門医研修カリキュラム」が達成できているか、自己評価と各責任者による評価を行う。

#### 教育担当者

鈴木雅裕（臨床研究部長・教育研修部長）

穂坂春彦（循環器内科医長）

宮川貴史（循環器内科医長）

片山隆晴

松村圭佑